

事業計画

中期計画

第8期中期計画 (2023~2025年度)

～北陸ろうきんビジョン～ はたらくひとの笑顔をつなぐ“ろうきん” 未来につながる“ろうきん”

北陸ろうきんの
【目指すもの】

ろうきんSDGs行動指針に基づき、誰一人取り残さない社会
及びろうきん理念の実現を目指していきます。

1. ろうきん運動の発展

「労働福祉事業団体・会員推進機構との連携」

2. 収益力の強化

「当期純利益 8.5億円以上」「ROA 0.12%以上」

3. 経営の効率化

「OHR 85%以下」

4. 健全性の確保

「自己資本比率 8%以上」

5. 利便性の追求

「キャッシュレス・Webサービスの充実」

6. 利用者の拡大

「顧客シェアの向上と新規顧客拡大」の両立

7. 店舗の最適化

「会員との連携拠点の整備」

8. ワークライフバンクとしての役割発揮

「SDGsへの貢献」

9. 働き方改革の前進

充実した「職場風土・組織作り」の確立

10. 人間力の向上

職員のレベルアップ(人材育成)

メインテーマ(基本方針) “更なる深化”と“これからの成長”で、働く人の暮らしを守ります

【更なる深化】戦略

1. 「ろうきん理念」に基づく 更なる役割発揮

- 労働者自主福祉運動の活性化によるろうきん運動の更なる進展
- 健全経営の継続と安定した会員還元の実現

2. 「生活応援運動」強化の取り組み

- 可処分所得向上の取り組み展開
- 金融サービスを通じたお客様本位の業務運営の実践

3. 「取引基盤の拡大」の取り組み

- ライフステージに対応した商品・サービスの提供
- 家計のメイン化による生涯取引の拡大

4. 「収益改革」による 強固な基盤構築の取り組み

- 重要経営指標「ROA」「OHR」の改善
- 更なる「経費削減」の実現
- 新たな収益確保に向けた商品・制度の見直しによる「収益改善」
- 「業務改革」による事務の効率化(BPR)・集中化と生産性の向上

5. 「管理態勢の強化」に向けた 取り組み

- コンプライアンス経営の実践とリスク管理の高度化
- 債権管理、危機管理等の内部管理態勢の強化

【これからの成長】戦略

1. 「事業基盤の拡大」に向けた 取り組み

- 営業力強化に向けた改革
- 将来を見据えた店舗の最適化に向けた会員連携拠点の整備

2. 「収益性と健全性」の最適化に 向けた取り組み

- リスクアベタイト議論の活性化によるリスクと収益の調和
- 安定した資金運用収益の確保と内部牽制態勢の強化
- 自己資本比率8%以上

3. 「デジタルとアナログを融合」した 取引チャネル拡充の取り組み

- 顔の見える営業活動とWebを活用した営業活動(非対面営業)の両立

- 非対面チャネル・キャッシュレスサービスの充実とペーパーレスの推進
- チャネルに対応したセキュリティ強化

4. 「サステナブル社会への 貢献」の取り組み

- ろうきん運動を通じた社会貢献活動の展開
- SDGs啓発と取り組みの発信強化

5. 「やりがいを持って働ける 職場風土作り」と 「人材育成」の取り組み

- 組織の活性化や職員のワークエンゲージメントの向上を目指した職場風土改革の前進
- 信頼される人財の育成
- 定年延長を見据えた対応

2024年度事業計画の重点取り組み施策

第8期中期計画(2023年度~2025年度)の2年目として、2024年度事業計画では、以下の重点施策に取り組みます。

- ① 会員・推進機構と協働にて「勤労者による・勤労者のための」労働者自主福祉運動を展開します。
- ② 多様化するニーズに応える営業スタイルの確立に向け、様々なチャネルを活用し利便性とサービスの向上に努めます。
- ③ 収益とリスクの適切なバランス管理を行い、安定的な経営基盤を確立します。
- ④ 「収益改革」に取り組み、事務の効率化・営業力強化に繋がります。
- ⑤ お客様本位の業務運営を展開し、働く人の生涯生活設計の支援に取り組みます。
- ⑥ 変化に対応できる人材育成に取り組みます。
- ⑦ コンプライアンス意識の向上を図り、事務事故・苦情等の未然防止・再発防止に取り組みます。
- ⑧ 令和6年能登半島地震からの復興に向けた支援活動に取り組みます。

2024年度計数計画

● 預金・貸出金計画

預金	残高増加目標額	60億円
貸出金	残高増加目標額	156億65百万円
	新規実行目標額	620億円 有担保410億円 無担保210億円

※上記計画の結果、預金・貸出金の残高は以下のとおりとなります。

(単位：百万円)

	期首残高	期末残高	期中増加額	期中増加率
預金	826,588	832,588	6,000	0.725%
貸出金	500,993	516,658	15,665	3.126%

● 収支計画

(単位：百万円)

支出の部		収入の部	
経常費用	8,266	経常収益	9,233
特別損失	—	特別利益	—
法人税等	266		
当期純利益	700		
合計	9,233	合計	9,233

2024年度事業計画におけるリスクアペタイト

① リスクアペタイト・フレームワーク (RAF)

「リスクアペタイト・フレームワーク (RAF)」とは、会員の皆さまの信頼に応える健全経営の実現（ろうきん理念の実現）のため、適正なリスクアペタイトによる必要な収益の確保をめざす取り組みです。また、その取り組みを明文化したものを「リスクアペタイト・ステートメント (RAS)」といいます。

② 2024年度事業計画におけるリスクアペタイト・ステートメント (RAS)

当金庫は、会員の皆さまの信頼に応える健全経営の実現（ろうきん理念の実現）のため、適正なリスクアペタイトによる必要な収益の確保を目的とします。

(1) リスクアペタイト方針

事業計画達成のため、リスクアペタイトの種類・量については、金融政策・圏内の市況を踏まえ、より多くの収益機会を追求（リスク・リターンの上昇）しつつ、リスクをコントロールした経営を意識して決定し、その管理を行います。

(2) リスクアペタイト指標

第8期中期計画の計数計画「めざす姿」を「重要目標達成指標 (KGI)」とし、目標達成のためのモニタリング指標を「重要業績評価指標 (KPI)」 「重要リスク指標 (KRI)」として設定します。

【重要目標達成指標 (KGI)】

KGI項目	2024年度	第8期中期計画 「めざす姿」
当期純利益	7億00百万円以上	8億50百万円以上
自己資本比率	8%以上	8%以上
ROA	0.10%以上	0.12%以上
OHR	86.6%以下	85%以下

【重要業績評価指標 (KPI)】

KPI項目	2024年度	
貸出金利息	61億10百万円	
余剰資金運用	18億80百万円	
(内訳)	預け金利息	8億20百万円
	有価証券利息配当金等	10億60百万円

【重要リスク指標 (KRI)】

KRI項目	リスクアペタイト指標	2024年度
金利リスク	IRRBB (重要性テスト比率)	31.73%
市場・信用リスク	有価証券リスクウエイト	41.39%
与信信用リスク	延滞率 (件数)	0.157%
健全性リスク	リスクアセット	4,711億円